

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①新学習指導要領を基盤にクリエイティブスクールの特性を融合した新しい教育課程を確立する。 ②生徒が学ぶ楽しさを実感できるような授業方法を確立する。	①RT-21 で学び直し及び基礎学力の定着を図る。さらに、教科横断型を踏まえた教材を研究する。 ②視覚的に理解しやすいよう工夫されたICTを活用した教材をつくり、全教科で共有する。	①毎時の確認テスト及び振り返りを次の教材にフィードバックする。 ②授業見学だけでなく、効果的な教材づくりの勉強会を行うことで、よりよい授業づくりを実践する。	①確認テストで生徒の躓きを把握する。さらに、毎時の振り返りの結果を次の教材に反映させる。 ②生徒による授業評価より、生徒の理解及び学習意欲が向上したかを観点とする。	①RT-21 についての打合せを入念に行い、1年間を通してフィードバック及び改善ができた。 ②「ICT活用」及び「指導と評価」の研修会を行い、全体で共有できた。	①RT-21 ステップの発展及び教材開発 RT-21 ホップが新1学年に引き継がれるか。 ②一人一台端末の利活用について、スマホ以上の活用方法を見出して教員全体で共有できるか。	①RT-21 には期待している。目玉となる科目を次年度以降どのように継続していくか？ ②実際にキーボードに向かって授業をする姿が想像しにくい。 ・総合的な探究の時間の「農業」は実施方法を改良してほしい。	・開講初年度のRT-21は、生徒が取り組みやすい教材を開発できた。2年生の「ステップ」でのより発展させた教材作成が課題である。 ・一人一台端末は総合的な探究の時間の中で、生徒個々が自分の使い方を発見し活用できるようになるなど、当初の目的を達成できた。	・新キャリアキンググループを再度立ち上げ、今年度の改善意見も踏まえながら、授業計画とともに新教材を開発する。 ・2年生が新たなテーマで発表を行う中で、他の教科でも活用し、繋げていけるように教科間連携を図っていく。
2 生徒指導・支援	組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に向き合える環境を整える。	・生徒一人ひとりに社会規範を身に付けさせる。 ・困り感がある生徒への支援策やプログラムを職員間で共有する。 ・行事等において自分の役割を果たし、他者に貢献するという意識を醸成する。	・全職員が共通認識をもって生徒指導・支援にあたる。 ・ケース会議の開催日を設けて、気になる生徒の情報共有し、早期支援につなげる。 ・行事において自身の役割と責任を自覚させた上で、活動させる。	・基本的生活習慣や社会規範を身に付けさせることができたかを振り返り等で確認する。 ・毎月1回以上ケース会議を開催できたか。 ・意識の向上を振り返りで確認する。	・全職員の共通理解ができ、基本的生活習慣や社会規範を身に付けた。 ・ケース会議を9回開催し、支援につなげた。 ・行事アンケートで役割と責任の意味を理解させたことが確認できた。	・登下校及び交通マナーを向上のため学校外パトロール・安全登下校指導を強化する。 ・相談件数が増えている。それに対するさらなる対応が必要である。 ・平時的な行事を復活させて、リーダーシップを養う機会をつくる。	・生徒指導があるとはいえず、校内が比較的落ち着いた学校外パトロール・安全登下校指導の効果が見られた。 ・学校の中に生徒の居場所を作っていかなければならないということを痛感した。 ・部活動の加入率低下について、家庭の事情でアルバイトに行かなければならないという事情も含めての分析が必要。	・交通事故が2件(前年より2件減)とコロナ禍で途絶えていた交通安全教育が実施できたなど、交通安全教育の効果が見られた。 ・相談件数がクリエイティブスクールになって最多になったが、これは職員の理解も進み、生徒の困り感を早期に発見し解決に結びつけた成果でもある。 ・外部機関と連携し、家庭環境で大きな困難を抱えた生徒に適切に対応することができた。	・交通事故は減ったが、校外パトロールの強化など交通安全・登下校指導が課題である。さらに坂道(狭い歩道)対策も喫緊の課題である。 ・悩みを抱える生徒が増加している。SC、SSW、SMTの継続的な配置の成果をさらに検証し、より効果的な相談体制を構築する。 ・家庭の事情で部活動に入れない生徒の理由をみつけ、支援策をつくる必要がある。
3 進路指導・支援	組織を機能的かつ急進的に動かすとともに、地域や外部機関との協働により生徒の自己実現をサポートし、自立できる力を育てる。	・希望生徒に対して時期に応じて適切なガイダンスを用意するなどきめ細かい指導を行い、希望に沿った進路実現を支援する。 ・進路情報を整理し、より使いやすい仕組みを構築する。	・説明会の実施時期や方法を工夫する。進路フェアの内容を見直し特に3年生にはより実践的な講座を用意する。 ・職員間の情報共有を促進するため、学年会とキャリアGの連携を進める。	・進路行事に関する生徒へのアンケートを実施する。より実践的な講座が用意できたかを確認する。 ・合同会議を適切な時期に開催できたか。	・進路フェアでは80%の生徒が意識が高まったと回答した。 ・学年・キャリア間で情報共有を行った。連携がうまくいき、進路での事故はなく、適切に対応することができた。	・進路についての不安を持つ生徒が70%いる。これを払しょくする仕組みが課題である。 ・外部機関との連携を図り、さらに進路支援を充実させる。	・進路を不安に思っている生徒と進路状況「その他」の関係がわかると、対応策を練れるのではないかと。 ・進路を決めたあとどう生き抜いていくかまで指導をしてほしい。 ・専門職大学についても生徒たちに広げてほしい。	・進路フェアは2年目で生徒の満足度も高く、イベントとして定着してきた。 ・SCCに繋ぐことできめ細かい進路指導が図れた。 ・外国籍の生徒に対して、将来を見据え、適切に支援する方策を実践できるかが課題である。 ・進路について不安を抱えている生徒が多い。その生徒が実際にどのような進路を選択したかを分析し、支援策を立てる。	・専門職大学や職業訓練校など多様な進路を知る機会をつくる。全生徒に福祉就労について学ぶ・知る機会を設定する。 ・進路フェアを年1回から2回に増やして生徒の進路活動をさらに促進する。 ・社会体験を発展的に解消して、進学希望・就職希望の両方に対応できるプログラムをつくり実践する。
4 地域等との協働	①保護者や地域との協働による開かれた学校づくりを確立する。 ②市との協働事業等に積極的に参加する。	①クリーンチャレンジを通してPTA・生徒・地域の協働で地域貢献活動を実施する。 ②地域と協働した避難訓練を実施する。	①10月下旬に地域貢献活動を含めたクリーンチャレンジを開催する。 ②日帰り防災訓練を行い、地域や大和市と防災意識を共有する。	①生徒及び保護者の意識調査を実施し地域貢献に関する意識が高まったかを確認する。 ②実施後のアンケート調査で生徒に意識の向上を確認する。	①生徒・保護者・教員100名ほどが参加し、地域に貢献できた。 ②生徒全員が訓練の必要性を理解した。防災意識を高めた。	①今後の状況では地域の協力を仰ぎたい。 ②6年度は生徒参画型実践的防災訓練を含め、総合的な学習の時間のテーマとして探求する。	①地域との協働については、コロナ禍後を見据えた計画をたててほしい。 ②防災については十分に取り組んでいる。さらなる取組を期待する。	・クリーンチャレンジについては、コロナ禍という状況の中で部活動生徒・PTA・教員で実施した。 ・コロナ禍で市との連携を図れる機会が、消防関係以外ではつくれなかった。	・クリーンチャレンジについて、今後は地域の方々との連携を図り、さらに拡大した環境づくりを行いたい。 ・まずは、市からのボランティア等の協力依頼を受けて、生徒の参加を促す。
5 学校管理 学校運営	①教育環境の整備と広報活動の充実に取り組み、開かれた学校づくりを進める。 ②安心・安全の学校づくりを基本に情報管理を徹底する等、事故不祥事ゼロとする。	①母校訪問を通じて本校の教育活動を発信するとともに、生徒の成長を中学校に伝える。 ②職員研修を通じて教員相互の意識向上を図る。	①訪問する生徒の人数を増やし事前指導を充実させる。 ②事故防止研修において、協議・意見交換の場を設定し、相互理解から意識向上に結び付ける。	①訪問する生徒数の増加及び生徒の報告から次の広報戦略に生かせるかを調べる。 ②意識調査及び事故・不祥事ゼロの達成度を観点とする。	①中学校訪問に行った生徒と手紙を届けた生徒で31名と目標を上回った。 ②全教員が研修・協議を通じて、意識が向上したことを実感した。	①1年生全員が中学校宛ての手紙を書き、本校の教育の成果をさらにPRさせたい。 ②6年度も事故・不祥事ゼロを継続・実践する。	①広報は十分に取組んでいることがわかった。 ②学校運営については、事故防止及び職場環境の改善からよくなっていることを確認した。	・twitterは、週1回程度(計53回)投稿し、本校を志望する中学生及びその保護者からも好評であった。 ・ホームページでは新制服紹介ビデオ、通学路ビデオ(大和東高校へ大和駅から行こう)、よくある質問10選(大和東高校Q&A)を新規掲載した。	・中学校の教員が本校に抱いているイメージが実態とあっていないことが判明した。教員対象説明会の充実とさらに積極的な発信を行い、来て、見ていただくような取り組みを企図する。